

第1章

〔政策〕1 背後圏の産業を物流面から支え、地域経済の進展に大きく貢献する港づくり

〔施策〕	〔基本事業〕	〔ページ〕
1-1 国際競争力ある高水準な機能を備えた港湾基盤の確立 (6 ページ)	1-1-1 港湾経営基盤の充実・強化	7
	1-1-2 道路アクセス網の充実	10
	1-1-3 港湾安全対策の推進	11
	1-1-4 港湾管理事務の適正執行	14
1-2 ユーザーニーズに基づいた利用しやすい港湾サービスの実現 (15 ページ)	1-2-1 港湾活動支援サービスの提供	16
	1-2-2 コスト低減・サービス水準の向上	17
	1-2-3 航路サービス網の充実	19
1-3 利用拡大に向けたマーケティング活動の推進 (21 ページ)	1-3-1 ポートマーケティングの推進	22

施策 1-1 国際競争力ある高水準な機能を備えた港湾基盤の確立

(主担当：整備部)

目的	対象	四日市港の港湾施設など総合港湾としての港湾基盤や基礎的な機能が	
	意図	国際的にみても高水準で、高い競争力を有している	
施策目標項目	接岸可能貨物船舶のトン数	目標値 (2006年度)	52.9万トン
		現状値 (2003年度)	45.9万トン

〔施策目標項目の説明〕

- ・四日市港に接岸可能な貨物船舶のトン数（各港湾施設において接岸可能とされる最大船舶のトン数の和）。目標値の52.9万トンは、霞ヶ浦北ふ頭80号岸壁、75号岸壁の整備完了の状態を想定した値

現状と課題

国内はもとより国際的にも高い競争力を有する総合港湾として、四日市港の港湾サービスの水準を高めるためには、まず、その根幹となる港湾のハード基盤や基礎的な機能のレベルアップを図る必要があります。

特に、国際海上輸送の主流となっているコンテナ貨物については、国内外の港湾間競争が激化しており、より高水準なコスト・サービスを提供できる施設の整備など、今後のコンテナ貨物量の増加、船舶の大型化への対応が最も大きな課題となっています。

また、四日市臨海部工業地帯を背後に有する四日市港は、原料の輸入、エネルギーの供給基地としても大きな役割を担っていることから、それらの企業の物流ニーズに対応した港湾施設の整備が求められています。

施策の取組方向

大水深のバースを備えた高規格コンテナターミナルとして、霞ヶ浦地区に北ふ頭国際海上コンテナターミナルを整備し、その管理運営には民間事業者の創意工夫を取り入れるなど、より効率的で利用しやすいターミナル運営の実現に取り組みます。

バルク貨物（コンテナ以外の貨物）についても、その物流ニーズに的確に対応するため、必要な港湾施設（岸壁、荷さばき地、上屋、荷役機械等）の整備、改修、維持補修の適正な実施に努めます。

また、背後圏から四日市港への道路アクセス網の充実については、第二名神高速道路や東名阪自動車道などの主要道路網へのアクセス強化となる、臨港道路霞4号幹線の整備を中心に、一層の充実を図っていきます。

なお、港湾施設の安全管理については、改正SOLA S条約への対応をはじめ、的確な安全対策を着実に実施することで、より安全性の高い港湾を目指します。

基本事業 1-1-1		港湾経営基盤の充実・強化	
目的	対象	四日市港における港湾経営の基盤が	
	意図	常に最適な状態で維持され、港湾経営の需要に適切に対応できるものとなっている	
基本事業の 数値目標	全公共岸壁における標準取扱貨物量	目標値 (2006年度)	10,587 千トン
		現状値 (2003年度)	9,995 千トン

〔基本事業目標項目の説明〕

- ・全ての公共岸壁や付帯設備の整備水準を考慮して標準的に取り扱うことができると考えられる貨物の量。目標値の 10,587 千トンは霞ヶ浦北ふ頭 80 号岸壁、75 号岸壁の整備完了の状態を想定した値

事務事業(取組)の概要

1010101 港湾施設の整備			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の港湾施設等が、岸壁ならびに背後ヤードなどの施設を適正に整備することで、安定的かつ効率的な港湾物流を支えるものとなっているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	整備済み岸壁の総延長	目標値 (2006年度)	8,035 m
		現状値 (2003年度)	7,575 m
1010102 北ふ頭国際海上コンテナターミナルの整備			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の国際コンテナ貨物の取扱い能力が、北ふ頭国際海上コンテナターミナルの整備ならびに管理運営体制を整えることにより、コンテナ船の大型化や、物流需要の増加などへの対応が可能になっているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	北ふ頭国際海上コンテナターミナル整備の進捗率 ・北ふ頭国際海上コンテナターミナル(80号岸壁)のヤード整備(完成時におけるヤード全整備面積は約14.5ha)にかかる進捗率。目標値の60%は2006年度のヤード整備計画面積(約9.2ha)の工程の完了を想定した値	目標値 (2006年度)	60 %
		現状値 (2003年度)	15 %

四日市港政策推進プラン

政策 1 背後圏の産業を物流面から支え、地域経済の進展に大きく貢献する港づくり
 施策 1-1 国際競争力ある高水準な機能を備えた港湾基盤の確立

1010103 港湾施設の維持補修			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の港湾施設及び付帯施設が、より適正な管理と迅速な補修に努めることで、正常な状態を維持し続けているという状態にします。		
事務事業の数値目標	港湾施設の補修率	目標値 (2006年度)	100%
	・港運関係団体からの港湾施設における補修(現状回復)要望箇所のうち適正に補修完了できた箇所の割合	現状値 (2003年度)	54%
1010104 既存ストックの有効利用			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の既存の港湾施設等における利用状況が、安定的かつ効率的な物流が行えるよう港湾施設相互の運用形態の最適化などを図ることで、より効率的に利用されているという状態にします。		
事務事業の数値目標	港湾施設の利用率	目標値 (2006年度)	60%
	・四日市港の岸壁、荷捌き地、野積み場が100%稼働した場合の使用料に対する使用料実績の割合	現状値 (2003年度)	58%
1010105 静脈物流の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港におけるリサイクル資源や廃棄物等にかかる取扱が、国が指定したリサイクルポート(総合的な静脈物流拠点港)との海上輸送ルート構築に向けた取組などにより、より拡大しているという状態にします。		
事務事業の数値目標	静脈物流にかかる取扱貨物量	目標値 (2006年度)	10,000 トン
	・港湾統計年報におけるリサイクル資源や廃棄物にかかる取扱貨物量	現状値 (2003年度)	8,595 トン
1010106 石原地区の整備推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	石原地区における港湾施設が、四日市港の開発・保全において発生する浚渫土砂及び地域の産業廃棄物の最終処分場として埋め立てることで、有効に活用できる港湾用地として整備されているという状態にします。		
事務事業の数値目標	石原地区における埋立事業の進捗率	目標値 (2006年度)	93%
	・石原地区全体の埋立事業の進捗率(土砂等投入量)。目標値の93%は浚渫土砂埋立区域の埋立(投入)完了と産業廃棄物埋立区域(55万㎡)のうち7万㎡を投入済みの状態を想定した値	現状値 (2003年度)	92%

1010107 港湾事業法人の健全経営促進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の港湾事業にかかる出資法人などが、適切な助言、指導を行うことにより、より経営状況が安定し、かつ、支援なしに独立した体質で、港湾経営基盤の一部として港湾利用にかかる支援サービスを適正に提供しているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	法人経営における黒字維持率 ・YFC(四日市港国際物流センター㈱)など支援対象の法人のうち、財務状況において当期利益に黒字を計上している法人の割合	目標値 (2006年度)	100%
		現状値 (2003年度)	100%
1010108 庁舎等建物の維持管理			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の庁舎等建物が、適正な維持管理を継続して行うことにより、それを利用する全ての者にとって、常に安全で快適な環境となっているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	庁舎等建物の維持管理にかかる苦情件数	目標値 (2006年度)	0件
		現状値 (2003年度)	0件
1010109 オフィス業務IT化の推進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港管理組合におけるオフィス業務が、ITを利用し、効率的に執行されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	業務システム数(開発着手を含む) ・システム開発に着手したものを含むオフィス業務にかかるシステムの総数	目標値 (2006年度)	4システム
		現状値 (2003年度)	2システム
1010110 災害時物流機能港湾連携の推進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の災害時における物流機能が、他港との補完関係を構築することにより、ロジスティクス機能を維持し、荷主企業のサプライ・チェーン・マネジメントを途絶えさせないシームレスなものとして維持されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	災害時に備えた港湾連携の取組項目数 ・コンテナ貨物を中心に名古屋港との間で取り組んだ災害時に備えた港湾連携の取組項目の累計。目標値の2件は補完的に港湾施設利用が可能となる体制の構築と緊急輸送道路活用に向けた関係機関への働きかけを想定した値	目標値 (2006年度)	2件
		現状値 (2003年度)	

1010111 公共事業総合コスト縮減の推進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港管理組合が実施する公共事業等の総合コストが、規格の見直しによる工事コストの縮減や事業のスピードアップによる事業便益の早期発現、将来的な維持管理費の縮減をも視野に入れた事業実施などにより、縮減しているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	公共事業実施にかかる総合コスト縮減率 ・四日市港管理組合が行う全ての公共事業における総合的なコストについての、2002年度水準に対する縮減率。目標値は第3次行動計画における2007年度目標を15%縮減とした場合の2006年度の値	目標値 (2006年度)	12%
		現状値 (2003年度)	
1010302 巡視船「かもめ」の運営(再掲)			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の航路・泊地・岸壁・海岸保全施設など水域の施設にかかる異常発見時の関係情報の提供や軽微な異常への対応が、巡視船「かもめ」を適正に運営し、巡視することにより、適正に実施されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	「かもめ」自体に起因する出勤不可事態の件数 ・「かもめ」の運航自体が原因で出勤できなかった年間の件数	目標値 (2006年度)	0件
		現状値 (2003年度)	0件

基本事業 1-1-2		道路アクセス網の充実	
目的	対象	四日市港への物流にかかる道路アクセスが	
	意図	道路アクセス網の充実により、背後圏の各方面から四日市港への最適な輸送ルートが確保できている	
基本事業の 数値目標	県内各方面及び滋賀方面から四日市港へのアクセス時間数の短縮率	目標値 (2006年度)	7%
		現状値 (2003年度)	

〔基本事業目標項目の説明〕

・県内(中勢・南勢・伊賀・東紀州)及び滋賀(長浜)の各方面から四日市港へのアクセス時間数(コンテナ車両での走行で地点間の距離から推計される所要時間)の総和が、道路整備の実現に伴い短縮される割合。目標値は富田山城線、国道365号員弁バイパス及び近畿自動車道紀勢線の一部区間の整備完了を想定した値

事務事業(取組)の概要

1010201 霞4号幹線の整備			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の臨港部における新たなアクセスが、四日市港霞ヶ浦地区から第二名神高速道路みえ川越ICを結ぶ新たな臨港道路として霞4号幹線を整備することにより、可能になっているという状態にします。		
事務事業の数値目標	霞4号幹線(暫定2車線)整備の進捗率 ・霞4号幹線の暫定2車線での完成に対する整備率(全体事業費に対する目標年次までの計画予算の割合)	目標値 (2006年度)	27%
		現状値 (2003年度)	0%
1010202 アクセス道路整備の促進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の背後圏から四日市港への物流にかかるアクセスが、各方面からの最適な陸上アクセスルートを検討し、各未整備区間の事業主体(管理者)に対して積極的に働きかけ、整備の促進を図ることで、四日市港ユーザーにとっての最適な陸上アクセスとして確立できているという状態にします。		
事務事業の数値目標	整備要望路線の整備実現件数 ・アクセスにかかる幹線道路等の整備において四日市港管理組合以外の事業主体に要望活動を行ったもののうち整備が実現したものの累計	目標値 (2006年度)	2件
		現状値 (2003年度)	

基本事業 1-1-3		港湾安全対策の推進	
目的	対象	四日市港の港湾物流活動における安全性が	
	意図	常に高い水準で確保されている	
基本事業の数値目標	港湾の安全性に起因する入港予定船舶の寄港中止件数	目標値 (2006年度)	0件
		現状値 (2003年度)	0件

〔基本事業目標項目の説明〕

- ・四日市港に入港することを予定していた船舶のうち、港湾における安全性に問題があることを理由として当該入港(寄港)を中止した件数

事務事業(取組)の概要

1010301 港湾施設の安全管理			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の港湾施設の利用にかかる安全性が、港湾施設を良好な状態に維持し、万が一異常事態が生じたときは関連する事故を防止するなど、高いレベルで維持されているという状態にします。		
事務事業の数値目標	施設の安全管理に起因する港湾活動への悪影響の発生件数	目標値 (2006年度)	0 件
	・港湾施設の安全管理に起因して港湾活動に支障が出た件数	現状値 (2003年度)	0 件
1010302 巡視船「かもめ」の運営			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の航路・泊地・岸壁・海岸保全施設など水域の施設にかかる異常発見時の関係情報の提供や軽微な異常への対応が、巡視船「かもめ」を適正に運営し、巡視することにより、適正に実施されているという状態にします。		
事務事業の数値目標	「かもめ」自体に起因する出動不可事態の件数	目標値 (2006年度)	0 件
	・「かもめ」の運航自体が原因で出動できなかった年間の件数	現状値 (2003年度)	0 件
1010303 港湾保安体制の強化			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の保安にかかる体制が、「四日市港保安委員会」などにおいて、その構成機関相互の綿密な連携が図られることで、十分に機能しているという状態にします。		
事務事業の数値目標	保安委員会による合同訓練実施回数	目標値 (2006年度)	2 回
	・保安委員会の構成機関による合同訓練の実施回数	現状値 (2003年度)	
1010304 改正SOLAS条約対策の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の国際港湾施設の保安状況が、国際埠頭施設及び国際水域施設の保安規程等の策定と、それに基づいた保安設備の整備や、対象港湾施設への出入管理の実施など、不審者、不審車輛等の侵入を防止することで、適正に維持されているという状態にします。		
事務事業の数値目標	四日市港における危害行為の発生件数	目標値 (2006年度)	0 件
		現状値 (2003年度)	0 件

1010305 放置艇対策の推進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の港湾区域内に係留されているプレジャーボート等の放置艇が、四日市港管理組合が指定する場所(水域)に秩序正しく係留されているとともに、地域住民の周辺環境に悪影響を与えないという状態にします。		
事務事業の 数値目標	所有者不明の放置プレジャーボート数 ・四日市内に放置されている所有者不明のプレジャーボートの隻数	目標値 (2006年度)	0 隻
		現状値 (2003年度)	130 隻
1010306 港内道路交通安全対策の推進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の臨港道路等における交通の安全性が、交通ルールを遵守した安全走行への啓発活動等により交通事故や転落事故を防止するとともに、暴走車両が走行しにくい環境の整備により暴走による迷惑行為等を排除することで、十分に確保されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	霞ヶ浦地区における交通事故件数 ・1年間に四日市港霞ヶ浦地区内において発生した交通事故(人身事故及び物損事故)の件数	目標値 (2006年)	前年度の件数以下
		現状値 (2003年)	29 件
3020103 清港活動の推進(再掲)			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港の港湾施設の状況が、清港活動とその活動を通じた環境に対する啓発を行うことで、ゴミをできる限り少なくし、きれいで安全に維持されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	港内清掃活動の実施率 ・年間の平日の日数のうち港内清掃活動を実施した日数の割合	目標値 (2006年度)	100 %
		現状値 (2003年度)	100 %

基本事業 1-1-4		港湾管理事務の適正執行	
目的	対象	四日市港管理組合が行う港湾管理事務が	
	意図	その目的や法規等に照らして適正かつ速やかに執行されている	
基本事業の 数値目標	各種事務の適正処分率	目標値 (2006年度)	100%
		現状値 (2003年度)	100%

〔基本事業目標項目の説明〕

- ・許認可などの各種事務のうち適正に処分を行った件数の割合

事務事業(取組)の概要

1010401 許認可事務の執行			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港管理組合が行う各種許認可の事務が、全ての申請等に対して、法規等に照らして適正であり、かつ標準処理期間内で速やかに処分決定されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	各種許認可事務の適正処分率 ・港湾法、海岸法など法令等に基づく各種許認可事務のうち適正に処分した件数の割合	目標値 (2006年度)	100%
		現状値 (2003年度)	100%
1010402 法定指定事務の執行			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港管理組合が行う各種法令に基づく区域の指定などの事務が、四日市港における諸活動の適正化と円滑化を図り、最善の港湾機能が確保できるよう、適正に執行されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	臨港地区の適正指定率 ・港湾を管理運営するために必要な区域として、臨港地区が適正に指定されている割合	目標値 (2006年度)	100%
		現状値 (2003年度)	100%
1010403 港湾統計調査の実施			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港における港湾統計調査業務が、法令等に基づき適正に執行されるとともに、IT化の推進により迅速かつ正確な集計業務を継続し、統計情報を迅速に広く提供できているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	統計業務の適正実施率 ・港湾指定統計(港湾調査)業務のうち適正に実施できた件数の割合	目標値 (2006年度)	100%
		現状値 (2003年度)	100%

施策 1-2 ユーザーニーズに基づいた利用しやすい港湾サービスの実現

(主担当：総務部)

目的	対象	四日市港ユーザーに提供する様々な港湾サービスが		
	意図	ユーザーのニーズに十分合致しており、どこよりも利用しやすい港湾のサービスと認知されている		
施策目標項目	港湾ユーザーの港湾サービス等にかかる満足度	目標値 (2006年度)	%	
		現状値 (2003年度)	%	

〔施策目標項目の説明〕

- ・ 港運企業や船社などの港湾ユーザーへのアンケート調査における、四日市港が提供する港湾サービス等に対する満足度。＜現状値は今後調査し把握する予定であり目標値も未定＞

現状と課題

四日市港が提供する港湾サービスのソフト面においては、港湾コストの低減やリードタイムの短縮によるコスト・サービス水準の向上、北米航路など基幹コンテナ航路の誘致による航路サービス網の充実・強化が、今後の大きな課題となっています。

特に、四日市港が海外・国内との物流の結節点として、企業のサプライ・チェーン・マネジメントの一環を担っていくことなど、港運企業や船社といった港湾ユーザーとの良好な関係を構築し、その関係を一層強めていくことが重要であり、そのためには、高水準なコスト・サービスをはじめ、よりユーザーの視点に立った利用しやすい港湾サービスの提供が求められています。

施策の取組方向

港湾管理者として、船舶の入出港や荷役作業など港湾で行われる諸活動への支援を適正に実施するとともに、「活力ある四日市港づくり懇談会」をはじめとする官民一体となった協働により、さらなる港湾サービス水準の向上に取り組めます。

コストの低減及びサービス水準の向上においては、港湾施設使用料などの港湾諸料金の見直しはもとより、港湾の運営に民間のしくみやノウハウを積極的に取り入れることで、よりユーザーのニーズに沿った港湾のサービスを実現していきます。

特に、新たなターミナルシステムの構築による港湾物流情報の共有化や、ロジステイクスパークの形成など、物流機能の高度化について積極的に取り組んでいきます。

また、航路サービスについても、ユーザーの物流ニーズに機敏に対応できるよう情報を的確に把握し、北米航路など基幹航路の新規誘致や、中国・東南アジア航路など既存航路の充実に取り組めます。

基本事業 1-2-1		港湾活動支援サービスの提供	
目的	対象	四日市港における港湾活動への支援が	
	意図	四日市港の港湾活動の主体にとって利用しやすく、かつ適正にサービス提供できている	
基本事業の 数値目標	港湾活動支援サービスにかかる苦情 件数	目標値 (2006年度)	0 件
		現状値 (2003年度)	0 件

〔基本事業目標項目の説明〕

- ・四日市港管理組合が提供する、港湾活動への支援等のサービスに対して港湾ユーザーから寄せられた苦情の件数

事務事業(取組)の概要

1020101 港湾利用船舶支援の推進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港に入出港しようとする船舶が、適正な船席の指定とともに、ひき船サービスなどの各種サービスを提供・斡旋することで、安全かつスムーズに港を利用できているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	船舶支援サービスにかかる苦情件数 ・船舶支援にかかるサービスの提供に対するユーザー等からの苦情の件数	目標値 (2006年度)	0 件
		現状値 (2003年度)	0 件
1020102 ひき船「ちとせ丸」の運営			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港におけるひき船サービスが、入出港する全ての船舶の安全かつスムーズな航行の確保に向け四日市港管理組合自らがひき船を運営することで、適正に提供されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	「ちとせ丸」自体に起因する出動不可事態の件数 ・「ちとせ丸」の運航自体が原因で出動できなかった年間の件数	目標値 (2006年度)	0 件
		現状値 (2003年度)	0 件

1020103 港湾荷役支援の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港における港湾荷役作業が、港湾荷役機械等の適正運用による便益の提供や、港湾荷役を行う諸団体への調整等を図ることにより、効率のかつ安全に行われているという状態にします。		
事務事業の数値目標	港湾荷役支援サービスにかかる苦情件数 ・港湾荷役支援にかかるサービスの提供に対するユーザー等からの苦情の件数	目標値 (2006年度)	0 件
		現状値 (2003年度)	0 件

基本事業 1-2-2		コスト低減・サービス水準の向上	
目的	対象	四日市港の利用にかかる港湾コスト及び利便が	
	意図	港湾ユーザーにとって、より優位性のある水準を実現している	
基本事業の数値目標	港湾コストの削減率	目標値 (2006年度)	20 %
		現状値 (2003年度)	

〔基本事業目標項目の説明〕

- ・コンテナにかかる港湾コスト(主に船舶関連費用、荷役料、ターミナル費用で構成されるコスト)の2003年度の水準に対する削減率

事務事業(取組)の概要

1020201 港湾コスト削減の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の利用にかかる港湾物流コストが、官民協働でコスト削減に取り組むことで、より優位性のある水準となっているという状態にします。		
事務事業の数値目標	港湾利用料金の見直し項目数 ・港湾利用料金のうち見直すことができた項目数の累計。目標値の4項目は入港料など目標年度までに延べ4項目の料金の見直し実現を想定した値	目標値 (2006年度)	4 項目
		現状値 (2003年度)	

1020202 港湾利用サービス向上の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の利用にかかる利便が、「使い勝手のよい港」の実現という観点から、官民協働で利用利便の向上に取り組むことで、より優位性のあるものとなっているという状態にします。		
事務事業の数値目標	港湾利用利便向上にかかる改善項目数 ・港湾利用の利便性について改善できた項目数の累計。 目標値の4項目は大型X線検査装置の導入など目標年度までに延べ4項目の改善の実現を想定した値	目標値 (2006年度)	4項目
		現状値 (2003年度)	
1020203 港湾諸手続きIT化の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の利用にかかる港湾諸手続きが、そのシステムである「港湾EDI」の利用率を向上させるとともに、それに連携する「港湾情報システム」を適正に運用することで、その大部分がITにより処理されているという状態にします。		
事務事業の数値目標	港湾EDI利用率 ・港湾EDIにより申請等できる港湾諸手続きの件数のうち港湾EDIを利用した件数の割合	目標値 (2006年度)	30%
		現状値 (2003年度)	19%
1020204 ロジスティクスパーク形成の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の物流機能が、背後圏荷主企業のサプライ・チェーン・マネジメントの構築、運営を支援するロジスティクス機能を拡充・強化するため、新たに臨海部にロジスティクスパークを形成するとともに、内陸部に通関機能をもつコンテナヤードを形成し、これらを有機的に結合させることにより、その高度化を実現しているという状態にします。		
事務事業の数値目標	臨海部ロジスティクスパークのグランドデザイン計画策定にかかる進捗率 ・霞ヶ浦地区北ふ頭国際海上コンテナターミナルの直背後の港湾関連用地(現状埋立未竣功地、2010年度竣工の予定)に企業等を誘致し形成していくロジスティクスパーク形成のためのグランドデザイン計画策定の進捗率。目標値の100%はロジスティクスパーク形成のためのグランドデザイン計画が策定できているという状態を想定した値	目標値 (2006年度)	100%
		現状値 (2003年度)	0%

1020205 航空貨物取扱の推進			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港における航空貨物の取扱が、海上輸送と陸上輸送を組み合わせた輸送形態の構築など空港との連携による取組を進めることで、可能になっているという状態にします。		
事務事業の数値目標	輸送モデルの構築数 ・航空貨物取扱にかかる輸送モデルの構築数の累計。目標値の2件は海上輸送と航空輸送を組み合わせた(シー・アンド・エアー)物流ルートの形態を2モデル構築することを想定した値	目標値 (2006年度)	2 件
		現状値 (2003年度)	
1020206 港湾物流情報システムの構築			
事務事業の目的 (対象と意図)	四日市港の物流に関する諸情報が、官民の協働により港湾物流情報システムを構築することで、効率的で無駄のない港湾物流の実現に向け、関係者間で共有されているという状態にします。		
事務事業の数値目標	四日市港利用物流事業者の日本コンテナ物流情報ネットワークシステム(JCL-net)への参加率(%) ・四日市港における物流事業者のうち「日本コンテナ物流情報ネットワークシステム(JCL-net)」に参加している事業者の割合。目標値の100%は関係する海貨・通関、陸運、ターミナル企業の全社が参加している状態を想定した値	目標値 (2006年度)	100 %
		現状値 (2003年度)	0 %

基本事業 1-2-3		航路サービス網の充実	
目的	対象	四日市港における航路サービス網が	
	意図	四日市港の背後圏に立地し、港を利用する各荷主のニーズを満たす充実したものとなっている	
基本事業の数値目標	四日市港における外貿定期コンテナ航路サービス数	目標値 (2006年度)	19 サービス
		現状値 (2003年度)	15 サービス

〔基本事業目標項目の説明〕

- ・四日市港において提供できる外貿定期コンテナ航路サービスの数。目標値は上海航路の増便・北米航路及び中国華南航路の新規開設とともに、既存の航路サービスについて休廃止されないことを目標とした値

事務事業(取組)の概要

1020301 新規航路サービスの誘致			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港で利用できる(コンテナ)定期航路サービスが、北米航路をはじめとしたより多くの定期航路サービスの就航により、荷主のニーズを満たしているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	外貿定期コンテナ航路サービスの新規開設数 ・新規に就航した外貿定期コンテナ航路サービスの累計。目標値の4件は既存航路の増便や新規航路の誘致により、目標年度までに延べ4サービスが新規に就航していることを想定した値	目標値 (2006年度)	4 サービス
		現状値 (2003年度)	
1020302 既存航路サービスの維持			
事務事業の 目的 (対象と意図)	既に四日市港で利用できる(コンテナ)定期航路サービスが、休廃止されることなく、荷主にとって利用しやすい安定した定期航路サービスとして提供されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	外貿定期コンテナ航路サービスの休廃止数 ・休止又は廃止された外貿定期コンテナ航路サービスの累計	目標値 (2006年度)	0 サービス
		現状値 (2003年度)	

施策 1-3 利用拡大に向けたマーケティング活動の推進

(主担当：総務部)

目的	対象	四日市港の利用状況が	
	意図	より多くの荷主に利用され、取扱貨物量が増加している	
施策目標項目	四日市港におけるコンテナ貨物の取扱量	目標値 (2006年)	290,000 TEU
		現状値 (2003年)	130,392 TEU

〔施策目標項目の説明〕

- ・四日市港におけるコンテナ貨物の年間取扱量。(ポートセールス活動は主にコンテナ貨物の集荷促進を目的に行われていることからコンテナ貨物の取扱量を目標指標としました。)目標値の290,000TEUは2010年に500,000TEUの取扱達成(スーパー中樞港湾における目標)を目標とした場合の2006年度の値

現状と課題

四日市港の利用をより一層促進するためには、港湾ユーザーのニーズに基づいたサービス提供の実現とともに、それらのサービスをより有効な手法でPRし、売り込むことが必要です。

特に、四日市港においては、セミナー開催によるPR、企業訪問による売り込みといった従来型のポートセールスだけでなく、より重点的で効果的な、戦略性のあるポートセールスの実現が、その課題となっています。

施策の取組方向

個別のユーザーが抱えている物流における課題に対して有効な解決策を提供するといった、カスタマー・ソリューション(課題解決)を重視した、よりきめ細かで、より効果的なポートセールスを実現するため、港湾物流にかかるマーケット調査及び分析の取組を強化します。

また、PR活動の実施にあたっては、港運企業などパートナーとの協働の中で、マーケット調査及び分析の結果に基づいた、より有効なポートセールス戦略を打ち出すなど、効果的で戦略性あるPR活動を展開していきます。

基本事業 1-3-1		ポートマーケティングの推進	
目的	対象	四日市港の背後圏に立地し、港を利用する荷主の多くが	
	意図	四日市港を利用しようという意向を強めている	
基本事業の 数値目標	四日市港におけるコンテナ貨物の取扱量	目標値 (2006年度)	290,000 TEU
		現状値 (2003年度)	130,392 TEU

〔基本事業目標項目の説明〕

- ・四日市港におけるコンテナ貨物の年間取扱量。(ポートセールス活動は主にコンテナ貨物の集荷促進を目的に行われていることからコンテナ貨物の取扱量を目標指標としました。)目標値の290,000TEUは2010年に500,000TEUの取扱達成(スーパー中枢港湾における目標)を目標とした場合の2006年度の値

事務事業(取組)の概要

1030101 マーケット調査・分析の強化			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港のマーケット(市場)にかかる情報の把握とその分析結果が、幅広く積極的に情報を収集し、的確な分析を行うことで、戦略的なポートセールスの実現に活かせるものとなっているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	企業貿易情報を把握できた荷主企業の割合 ・四日市港が訪問対象としている企業(現状約1300社)のうち貿易情報を把握できた荷主企業の割合。目標値の75%は2010年度までに100%の把握を実現するとした場合の2006年度の値	目標値 (2006年度)	75%
		現状値 (2003年度)	56%
1030102 ポートセールスの推進			
事務事業の 目的 (対象と意図)	四日市港のポートセールス活動が、マーケットの調査・分析に基づき、その戦略性を高めることで、港運企業などのパートナーとの協働の中、より効果的に展開されているという状態にします。		
事務事業の 数値目標	荷主企業に対して売り込み活動を行った延べ件数 ・荷主企業を訪問するなどして、1年間に売り込み活動を行った延べ件数。目標値の1200件は四日市港の訪問対象としている企業(現状約1300社)のうち地域別に優先度を考慮して1000社程度を訪問し、新規開拓及び再訪問を100社ずつと想定した値	目標値 (2006年度)	1,200件
		現状値 (2003年度)	1,104件